

## 平成 29 年度 指定管理施設運営状況評価表

### 1 施設の概要

施設の名称	障害児入所施設 はまゆり学園	
指定管理者	団体名	社会福祉法人 みちのく福祉会
	代表者名	理事長 内田 大輔
	所在地	むつ市大字奥内字大室平 9 1 番地 1
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	
指定管理業務の概要	1. 障害児入所支援 2. 短期入所事業 3. 日中一時支援事業	

### 2 収支の状況

単位:千円

区 分	計画額①	実績額②	増減 (②-①)
収入合計 (A)	136,433	136,556	123
うち利用料金額	91,003	72,015	△18,988
うち指定管理料	44,000	63,754	19,754
支出合計 (B)	136,433	135,181	△1,252
うち人件費	95,534	86,043	△9,491
収支差 (A) - (B)	0	1,375	1,375
計画書と比較した 実績額の増減理由	<p>収入については、当初計画より入所児童数が少なく更に「措置児童」が前年度より減ったため減額となったが、地域支援（短期入所・日中一時）の利用収入が大きく伸びたことで、増額の結果となっています。</p> <p>支出においては、初年度の運営結果を課目毎に精査しておりその結果を踏まえつつ適切な対応を行うことで施設維持管理費の抑制に繋がっています。</p>		

### 3 施設利用の状況

単位：人

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増減 (①-②)
利 用 者 数	入 所	30	20	△10
	短 期 入 所	260	249	△11
	日 中 一 時	600	311	△289
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ) <p style="text-align: right;">【年4回実施】</p> 1. 年間行事に関すること (対象者：入所児童の保護者) 2. 行事評価及び改善点に関すること (対象者：入所児童の保護者) 3. 施設運営に関すること (短期、日中一時) (対象者：短期、日中一時児童の保護者) 4. 一年間の振り返りに関すること (対象者：入所児童の保護者)				

### 4 自主事業の実施状況

単位：人・円

No.	事 業 名	事業内容	利用者数	収 入	支 出
1	子と親子の施設体験事業	障害がある児童を持つ家族を対象に、はまゆり学園がどのようなものなのかを知ってもらい、利用の促進につなげる	15	0	18,256
2	障害制度の研修	①障害児と成人の制度の違いを知り、地域移行に向けての準備に役立ててもらおう ②適切なお金の使い方を親子で学ぶことで将来に役立てる	12	0	19,508
3	障がい者スポーツ教室	障がい者スポーツの普及とリハビリテーションを目的とし多くの人との交流の機会を持ち障がい者自身の社会参加を促すとともにボランティア等に関心を持ってもらい、人材を育成する機会とする	69	0	11,520

## 5 個別項目評価

評価項目	自己評価	下行評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
① 開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか	A	A
② 施設の使用許可等が適正、円滑に行われたか	A	A
③ 利用者に対する接客マナー等職員の勤務態度は適正だったか	A	A
④ 利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか	A	A
(2) 利用促進に関する取組み状況		
① 施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか	A	A
② 潜在的な利用者等に営業活動を行い、利用アピールをしたか	A	A
③ 自主事業を企画・実施し、効果が得られたか	A	A
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
① 施設管理経費を低減するための取組みを行い効果があつたか	A	A
② 収入増を図るための取組みを行い、効果があつたか	A	A
③ 職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか	A	A
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
① 施設管理経費を低減するための取組みを行い効果があつたか	A	A
② 収入増を図るための取組みを行い、効果があつたか	A	A
③ 職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか	A	A
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
① 利用者が平等利用できるよう利用情報提供の配慮をしたか	A	A
② 日常の事故防止等の安全対策は適正であったか	A	A
③ 防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか	A	A
④ 利用者の個人情報保護は徹底されていたか	A	A

## 6 指定管理者総合評価

指定管理者制度初年度を終えて、新たに力を入れて取り組んだことは児童及び家族が抱える様々な背景や課題を理解すること、児童本人の心身の安定を図るためのアプローチ、児童を中心に置き関係機関との情報共有を重ねながら目標に向けて協働して進むこと、将来へ向けた方向性を皆で確立することでした。それを元に卒園生5名を無事にそれぞれの新しいステージへ送り出すことができました。

学園を「安心・安全」な場所にするために、園舎内・外の安全点検及び確認は職員全体が把握できるような取り組みを引き続き進めています。男女に関わらず支援員が月初に設備点検表を基に見回りを実施、更に避難訓練の立案や消化器を使用した消火訓練を通して職員の意識向上を図っています。また、「流行性疾患（インフルエンザノロウイルス）発生“0：ゼロ”更新」は、看護師を始め職員全員が予防意識を高め実践した結果だと高く評価しています。

少子化等の問題により「入所児童数」は伸び悩んでいます。地域支援（短期入所日中一時）については、地域及び保護者のニーズに答える形で「短期入所：利用定員増」を実現、昨年末からは「放課後等ディサービス事業」を併設したことで利用者が増加。養護学校～ディ～短期入所といった「総合的・重層的な児童福祉サービス」の実践により「むつ・下北地域唯一の児童入所施設」の存在意義と可能性、新たな展開を示すことができたと思います。

昨年度から、むつ市健康推進課・保健師さんが中心となって実施している「あそびの教室」に「人的地域貢献」として職員を派遣しています。更に今年度は「あそびの教室」を学園多目的棟で実施できたことは「福祉的資源の公益化」とともに、療育に不安を抱える保護者の方々にとっては学びと経験の場となり、将来的な利用者の増加にも有効であったと考えます。

施設設備については、消防法の改正により「火災報知設備と火災通報装置の連動に関わる装置の取り付け」を実施（むつ消防署検査済）。定期点検により給水及び加圧ポンプユニットの不調が確認され、ゲージ取替とポンプユニット修理を行っています。今後も日々の点検と定期的な見回りを続けつつ、施設の維持管理には万全を期す所存であります。

## 7 下北地域広域行政事務組合の総合評価

指定管理者制度2年目を終え、新たな取り組みとして児童と家庭が、児童本人の内面的な部分での心身の安定を図りつつ、様々な課題をひもといて一歩ずつ前進しているように見受けられます。

日頃より居住環境の安定を図り、安心・安全に過ごすことができるよう、災害防災に関して避難訓練・消火訓練や設備点検を男女を問わず毎月行うことで職員の高い意識が伺えます。

また、将来的な利用者増を見据え、むつ市健康づくり推進課主催の「あそびの教室」へ職員を派遣するなど積極的に参加している一方、入所児童数がなかなか定員に達していない状況の中、短期入所・日中一時支援を有効に活用した「放課後等ディサービス事業」を行い、むつ養護学校の生徒や保護者に対し不安を少し軽減できる。

看護師や職員の適正な対応により流行性疾患（インフルエンザ・ノロウイルス）がゼロという結果からも安心して児童が快適に過ごせて生活できています。

このことにより、指定管理者が創意工夫され、時代の流れに対応した経営に取り組むことを期待します。